

# 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成19年7月4日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0793100017		
法人名	有限会社 和みの里		
事業所名	なごみの里グループホーム		
所在地	〒963-7704 福島県田村郡三春町大字熊耳字上荒井82番の1 (電話) 0247-62-1777		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんなゆうビル302号室		
訪問調査日	平成19年6月25日	評価確定日	平成19年7月23日

【情報提供票より】(平成19年5月26日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 18年 8月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤 8人, 非常勤 1人, 常勤換算 9.2人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	1階建ての 1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	12,000~13,500(11~3月) 円	
敷金	有( 円)	無(退居時に居室クリーニング代20,000円)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	230 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	70 円
	または1日当たり		円	

### (4) 利用者の概要

利用者人数	9名	男性	4名	女性	5名
要介護1	1名	要介護2	4名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.7歳	最低	75歳	最高	90歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	三春病院、西山医院、原歯科
---------	---------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市街地からやや離れた国道沿いの自然環境に恵まれた、2kmを有する敷地に建てられた1ユニットのモダンな外観のグループホームである。ゆったりとした居室と、ダウンライトがリビングを柔らかく包んでおり、落ち着いた居室空間を演出している。開設10ヶ月のホームであるが、経営者が医師であり、管理者や職員スタッフは看護・介護関係の有資格者が多く、地域密着型サービスの役割を担うべく体制を整えている。利用者に対する受容と共感・共有、支援、見守りを掲げ、それらを実現するために職員が自己研鑽に努めることを目標とし、真摯に支援に取り組んでいる。従って利用者は落ち着いた表情で自由に過ごしており、日々の生活に対する満足感が感じられる。医療連携体制も整っており、重度化に対応し、ベッドごと移動可能な入りロスペースを広く取ったスライド式ドアの居室も整備されている。今後は地域の人たちとの交流を一層深めるなど、地域密着型サービスとして地域との関連性を重視した取り組みを期待したい。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 評価の意義については管理者はじめ職員全員が理解し、今回の外部評価に対しても積極的に対応し、前向きな姿勢が感じられる。職員全員で行った自己評価についても、会議等で十分議論をしながら具体的に改善に向けて取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5) 区長、弁護士、僧侶、民生委員、行政の介護保険担当職員、利用者の代表等、運営推進会議のメンバーが多彩である。経営者が認知症高齢者を地域で支えるための必要性に対し、理解を求めながらグループホームでの利用者の生活状況や活動状況を説明し、理解を得ており、運営推進会議を活かした取り組みを行なっている。外部評価に対する理解も図られていることから、今後、外部評価の結果についても公開し、第三者の意見を参考にしながら利用者支援に活かされるよう期待する。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 毎月定期的に利用者の家族に生活状況や健康状態を職員が添え書きをし送付している。個人ごとのホーム行事やレクリエーションの写真等も併せて送付するなど、きめ細かに対応している。金銭の報告についても使途を明確にした出納状況の明細書を送付し、家族等の確認を得ている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 開設後、10ヶ月と日も浅いことから、まだ町内会に未加入であり、地域との交流がやや希薄である。しかし、地区単位で企業や地域住民とが行なう自主防災組織を活用し、防災訓練を行なうなど徐々に地域との交流が行なわれている。利用者は全て町の住人である。グループホームは地域とのつながりの中で暮らせるための基盤づくりが重要であることから、運営推進会議等を十分活用しながら地域活動に参加し、交流を深める実践的な取り組みを期待したい。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	慈愛を基本理念に掲げ、受容、共感・共有、支援、見守り、養成を目標とし、職員全員で行動指針を作成し、取り組んでいる。今後は、地域密着型サービスの役割である地域住民との交流の下で、利用者支援を行う内容を加えることにより、地域との関連性が明確化されると思われる。	○	管理者はじめ職員全員が地域密着型サービスの役割を理解しているため、地域密着型サービスの役割や果たすべく内容として、地域住民との交流の下で、その人らしく暮らせることを支援する内容を加え、明確化されることを望む。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	定例的な会議やミーティング等で理念についての話し合いを行っており、十分意識づけがなされている。職員は実践に向けて日々努力し、支援している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設1年未満でもあり、町内会には未加入である。企業と地域との自主防災組織との交流を行い防災訓練等に参加している。利用者が地域とのつながりの中で生活することが望ましいので、そのためにも一層の地域交流を行ない、地域住民の一員としての役割を果たすことが求められる。	○	グループホームが地域から受け入れられるよう、地域の行事や活動に参加するなど関わり合いを持つことが重要である。運営推進会議等を通じて地域の情報を得ながら積極的に参加し、活動や役割を担うことによって、地域住民との双方向の関係が構築されると思われる。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や重要性について職員全員で理解しており、自己評価についても、全員が参加し、改善に前向きに取り組んでいる。運営推進会議でも外部評価の重要性を委員に説明し理解を得ていることが記録から確認された。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の議事録では、グループホームの概要、サービス提供状況、年間行事説明等を行い委員の理解を深めるとともに地域の情報把握等に努め、特に地域の自主防災組織加入を予定している。グループホームの外部評価についても委員から具体的に質問や意見が出ており、評価結果の公開により、実質的なサービスの質の向上を図られることへの認識が浸透している。		
6	9				
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	手紙による利用者の近況や金銭出納状況、受診記録等の報告を定期的に行っており、病状の変化等があった場合には、その都度電話で報告するなど、きめ細かな対応をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問する家族に対しては気軽に話ができる雰囲気づくりに配慮しており、運営推進会議でも家族会の代表との積極的な話し合いが持たれている。また、相談・苦情窓口を設置し公表している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設後の職員の離職は少ないが、利用者へのダメージを軽減するため、退職1ヶ月前に新規採用者を配置し、引き継ぎの期間をとることで、利用者との馴染みの関係を築くよう工夫している。今後、新任者の対応マニュアル等の作成を検討している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修体制は整備されている。特に、グループホーム連絡協議会の研修を中心に受講の機会を与え職員の資質の向上を図っている。外部研修受講者により働きながらのトレーニングを行い、全職員で共有を図っている。外部研修の希望があった場合は、勤務体制を考慮して、できるだけ参加できるように配慮している。今後は習熟度ごとに段階的な研修計画を作成し、計画的実施を検討している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のデイサービス職員との交流やグループホーム連絡協議会の研修時の情報交換等によりサービスの質の向上に努めている。また、近隣の市のグループホームの管理者や職員が見学に訪れるなどしており、事例検討などを行なっている。今後は他のグループホームを訪問・見学し実践的な交流を行なうこととしている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活歴を尊重し、十分に話を傾聴し、学びの姿勢を維持しながら、共に支えあいの関係を築いているようである。例えば、畑仕事なども利用者が中心となり、一緒に作業を行い、成果物に対する喜びを共有している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	フェイスシートで利用者の生活歴や身体的状況、状態像を把握し、本人や家族から希望や意向を十分聴取し、生活援助計画に反映させている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本人の意向や状態像を把握し、本人の望ましい生活像を長期目標に掲げ、そのための短期目標に向けての課題や解決するための具体的なサービス内容がかなり細かく記録され、その結果を評価している。月1回の定期的ケースカンファレンスで、問題点や周辺行動の対応等についても話し合いを行い、職員全員で計画内容を把握している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状況や変化に対する計画の見直しを行っており、家族にも説明し確認を得ている。また、サービス内容について4段階評価によるモニタリングを行っており、随時、状況変化に対する見直しも行っている。今後は、サービス内容とモニタリングがスムーズに連動し、計画の見直しにフィードバックするような分かりやすい記録方法を検討することとしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の定期的な往診が行われている。また、夜間急変時でも医療体制が確保されている。家族の受診支援ができない場合は職員が介助し、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化対応や終末期の看取りについて職員全員が把握しており、重度化・看取りに関する指針や同意書も作成されている。経営者が医師であり管理者が看護師であり、医療連携体制が整備されているので、入居の際に重要事項説明書等に重度化した場合の対応を記載・説明し同意を得ることが望ましい。	○	医療連携体制の整備がなされていることから、重要事項説明書やパンフレット等に重度化した場合の対応等も明記し、重要事項説明書では、家族等に対する事前の説明や同意を得ることが必要と思われる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者が地元の人たちであることから、特に、個人情報保護の徹底については職員も十分理解し秘密保持に努めている。また、人生の先輩として尊厳を基本とした接遇に留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	手芸、書道、菜園などを利用者の好みを把握し、それぞれのペースに合わせて、さりげなく支援している。また、食事を一人で食べたい方には、居室に配膳し希望に添って支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の準備や後片付けなど職員と一緒にいき、食事を一日の大切な活動としている。職員も利用者のペースに合わせ、支援しながら一緒に食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者のそれぞれの希望にそった入浴支援を行っている。脱衣場が広いため移動式の浴槽を配置し対応することも可能である。また、利用者の羞恥心や抵抗感にも配慮しながら、さり気なく見守り支援している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	農作業、調理、手芸等利用者の得意とする分野を十分把握しており、それぞれの役割や場面づくりを設定し、活かすような取り組みに配慮している。広い家庭菜園にはナス、トマトその他の野菜類が見事に生育している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	敷地が広いため、自由に散歩が出来る環境である。また、市街地のスーパー等に買い物に出かけたり、美容院に行くなど利用者の希望に添った外出の支援をしている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけていない。玄関にはセンサーがあり、出入りの確認はできるが、職員は見守りながら一緒について行き、対応している。利用者の自由な行動を尊重しながら、安全面での配慮をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	4月に避難訓練を実施しており、地域の自主防災組織に加入する予定である。日頃より地域住民や警察署等の連携を図り協力体制をつくる必要があり、災害に備えた食料品等の備蓄の準備も必要である。	○	災害時には地域の協力体制が必要であることから、日頃から災害時対策についての理解を求めるよう働きかけを行なう必要がある。近くに警察署や公共施設があるので、連携を深めることも重要である。また、自主防災組織の活用により定期的に避難訓練や消火器等の訓練を行うとともに、災害時の食料・水等の備蓄も必要である。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人のデイサービスの管理栄養士による栄養管理を基本としながら、利用者の身体状況や嗜好を観察し、栄養バランスをみながら支援している。チェック表に水分や食事量を記録し把握している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	モダンな建物にマッチした共用空間となっており、ダウンライトが柔らかな雰囲気演出している。リビングからは芝生の庭が眺められ、全ての居室からも緑が眺めることができ季節感を味わいながら居心地よい生活を過ごせる空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、それぞれの好みの家具や日常的に使われていた備品が持ち込まれている方が多く、環境の変化を最小限に抑え、我が家のような安心感で生活しているようである。		

※  は、重点項目。

### 3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 なごみの里グループホーム

記入担当者名 白川 紀代

#### 評価結果に対する事業所の意見

特になし

#### 評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。